

和地ひとみレポート No.175

市長が平成28年度の予算編成方針を発表

来年度の市政の基本となる予算の編成方針は？

■東大和市の市政運営の「基本」は

…昨年度（平成26年度）の決算が9月に特別委員会で審議されたばかりですが、このたび、市長が来年度（平成28年度）の予算編成に対する編成方針が発表しました。

…行政における予算編成は、決算→政策評価→市長からの予算編成方針→予算要求→予算要求の査定→予算案の決定という流れで行われ、そのスタート時期は決算の認定後＝10月からとなります。

…行政の取組みは、東大和市総合計画「第二次基本構想（改訂）及び第四次基本計画」など市の大きな方向性を示すもの。そして、その実現のために何をやるのかが書かれている「東大和市実施計画」に基づき行われます。この『市がどのような方向を目指し、目標に向けて何を行うのか』の基礎となるこれらの計画は市が様々な場面で立ち返るもの。予算編成もその大きな場面の一つです。市のホームページ等でも、これらは閲覧できますが計画期間が長いことから、なかなか市民の目に触れることがないので、ここで再度、確認したいと思います。

「第二次基本構想（改訂）」とは

まちづくりの長期的な展望を示すもの。平成13年12月に策定した第二次基本構想が10年を経過したことから、平成23年に基礎的指標を見直し改訂された。

- (1) 目標年次：平成33年度
- (2) 目標年次までの期間における最大人口は見直し後に9万人と変更。

「第四次基本計画」とは

- (1) 計画期間：平成25年度～平成33年度
- (2) 第四次基本計画で目指していること
 - ・市民と目標を共有し、協働してまちづくりに取り組むことができること。
 - ・施策の重要度、満足度を評価し、優先度を検討すること。
 - ・行政評価制度と連動させた進行管理方法を整備すること。
 - ・施策体系に即した実施計画を策定すること。

「東大和市実施計画」とは

- (1) 計画期間：平成27年度から平成29年度
- ～主要事業～
緊急を要する事業や、継続実施が求められる事業など、真に実施が必要と思われる事業を選定し、第四次基本計画の分野別計画の体系に基づいて整理したものを「主要事業」として定め、今後の予算編成の指針とするもの。以下の5つの分野で構成されている。



- ①豊かな人間性と文化をはぐくむまちを築くために
- ②健康であたたかい心のかよいあうまちを築くために
- ③暮らしと産業が調和した活力あるまちを築くために
- ④環境にやさしく安全で快適なまちを築くために
- ⑤相互の理解と協力に支えられるまちを築くために

～財源対策実施項目～

平成26年度の当初予算額を基準に、一般会計の経常的な財政収支の見通しについて予測をしたうえで、「主要事業」における事業を実施した場合、3年間で約24億6千万円の財源不足が生じることが判明。よって、行政改革の取り組みを引き続き推進するために立てた財源の対策。

■市長の政策は？

…では、このような『土台』となる方向性がある中、市長の政策はどのように、そして、どのくらい反映されるのか。私自身も、毎年、予算を見る中で、その点を確認しています。そうでなければ「誰が市長になっても同じではないか」ということになってしまうと思うからです。

…行政は、様々な分野の業務（事務）を行っているので、ベースとなる大きなことは変わりません。しかし、やはり市長の影響力は毎年予算の中で見いだせます。今回の予算編成方針では、市長が選挙の時に打ち出した「日本一子育てしやすいまちづくり」をひとつの大きな優先施策として挙げています。昨年までは、下記（裏面）の優先施策の中の「地域力・教育力の向上」と「福祉の行き渡ったまちづくり」の一部として扱われていた「子育て」を、今回はひとつの優先施策として取り上げ、予算を組むことが伺えます。

…また、表立った施策には大きな変化はなくても、その具体的な事業や充てる予算の増減で、来年度、何を重視して、どのような体制で、どのように取り組むのか、また、何を大きく推し進めようとしているのかも予算から伺えると思います。

…先月、行われた決算特別委員会で特別委員（≒議員）が指摘した点も予算編成には影響を与えることになります。来年の3月に開催される「予算特別委員会」に向け、予算編成の過程から注視することが重要。それにより、来年度の東大和市の1年間が充実したものとなると考えます。議会や委員会という場だけでなく、日常的に市民の要望や市の問題点を市には伝えていきたいと思っています。皆さんも何かお気づきのことがありましたら、お気軽にご意見をお寄せいただきたいと思います。

■平成28年度予算編成における優先施策（市長の平成28年度予算編成方針より）

『日本一子育てしやすいまちづくり』に係る施策

- ・子育て支援の一層の充実
- ・教育内容と教育相談体制等の充実

『住みよい、活気あるまちづくり』に係る施策

- ・地域の特性を活かした魅力ある事業の展開
- ・行政サービスの電子化による利便性の向上
- ・市役所本庁舎の耐震化等

『環境にやさしいまちづくり』に係る施策

- ・廃棄物の減量化施策の推進
- ・環境保全に向けた施策の導入

『福祉の行き渡ったまちづくり』に係る施策

- ・市民の健康増進を図る施策の推進
- ・（仮称）総合福祉センターの開設と運営

『地域力・教育力の向上』に係る施策

- ・教育内容と教育相談体制等の充実（再掲）
- ・学校施設の環境整備等
- ・新学校給食センターの建設等



■東大和市の平成28年度予算の編成に向けて（市長の平成28年度予算編成方針より）

はじめに歳入では、市民税(個人)については、雇用や所得環境の改善傾向を反映した内容が見込まれるところであるが、市民税(法人)に関しては、企業収益に改善の動きが見られる一方で、一部国税化の影響等を考慮する必要もあり、確たる見通しは難しい状況となっている。また、地方交付税については、国の「経済・財政再生計画」において、別枠加算や歳出特別枠といった歳入・歳出面の特別措置の見直しが検討されており、今後の地方財政計画等の内容を注視していく必要がある。

次に歳出であるが、減少が続いていた公債費は、平成28年度から増加に転じ、扶助費についても、障害者福祉費、児童福祉費および生活保護費において、引き続き増加が見込まれるところとなっている。

また、市民の健康の保持・増進を図る予防接種や健康診査等に係る物件費の増加と、高齢社会における介護給付費や医療給付費の増加が続き、介護・医療に関連する特別会計への繰出金についても、その影響が及ぶところとなっている。

このような状況が見込まれる中、平成28年度においては、学校給食センターの新築と市役所本庁舎の耐震化を継続し、（仮称）総合福祉センターの開設と運営も予定されている。さらには地方創生・地域戦略に基づき魅力ある施策の展開を図る必要もあり、「日本一子育てしやすいまち」を目指す中、主要となる事業の財源確保においては、非常に困難な状況が生じてくると考える。

以上のことから、平成28年度予算の編成は、引き続き厳しい状況になると見込まれるが、持続可能な市政を目指し、市民サービスの充実等を図るため、職員一人ひとりには一層の努力を願い、チームワークを発揮して課題の解決にあたって欲しいと考えている。

また、開かれた市政の実現に向けては、情報公開と説明責任の徹底を引き続き図り、施策の形成や課題の対応に当たっては、その過程の透明性を確保していかなければならない。

平成28年度においても、抱える諸課題に対し各課が積極的な姿勢で臨み、取り分け市政の重要案件に関しては、職員が総力を挙げて取り組むことで、市民の理解と信頼が得られ、市政が発展するものと考えている。

そこで、平成28年度の予算編成に当たっては、前述した内容を認識し、掲げた優先施策と基本方針、別に定める予算編成要領等に基づき、予算見積書を作成されたい。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート

「身近なようで知らなかった市政、議会。伝えることがスタートだと思います。」

【プロフィール】



1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。／「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。／「人を活かす」経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報などに従事。2011年4月、初当選。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員

和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>

✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102